



TITLE:

法令

AUTHOR(S):

CITATION:

法令. 經濟論叢 1926, 23(4): 696-702

ISSUE DATE:

1926-10-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/128450>

RIGHT:

京都市帝國大學經濟學會 經濟論叢

第 四 號 第 二 十 三 卷

大正十五年十月一日發行

論 叢

「中庸」に見はれたる經濟思想

教授 法學博士

田島 錦治

經濟議會としての一種と獨逸經濟委員會

教授 法學士

森口 繁治

不在者課稅論

教授 法學博士

神戸 正雄

流通過程に於ける酒稅の轉嫁

助教授 法學士

汐見 三郎

時 論

輸出信用保險について

教授 經濟學博士

小島 昌太郎

講 演

現今に於ける爲替相場の變動

横濱正金銀行
法學士

水津 彌吉

說 苑

我國財政の變遷

教授 經濟學博士

本庄 榮治郎

琉球の慶長役以前

教授 法學博士

山本 美越乃

雜 錄

資本利子稅の客體に就て

和歌山高等商業學校
教授 經濟學士

小山田 小七

徵兵制度反對宣言に就て

助教授 法學士

作田 莊一

實際貨銀と其測定

講 師 經濟學士

蜷川 虎三

法 令

鐵大勞役扶助規則中改正・造幣局合金製造規則・畜產物販賣取締及受托販賣獎勵規則・水産増殖獎勵規則

法令

鑛夫勞役扶助規則中改正

內務省令第十七號 (大正十五年六月二十四日)

第一條中「鑛務署長」ヲ「鑛山監督局長」ニ、第一項第六號中「其ノ方法及拂戻ノ手續」ヲ「其ノ方法、拂戻ノ事由及手續」ニ改メ、同項第五號ノ次ニ左ノ一號ヲ加ヘ以下順次繰下ク

六 石炭鑛業ニ在リテハ檢炭ニ關スル事項
第二條中「鑛務署長」ヲ「鑛山監督局長」ニ改ム

第三條第一項第四號ノ次ニ左ノ一號ヲ加ヘ以下順次繰下ク

五 鑛夫十六歳未満ナル場合ニ於テハ尋常小學校ノ教科ヲ修了シタル者ニ在リテハ其ノ修了シタル尋常小學校名及修了年月、尋常小學校ノ教科ヲ修了セサル者ニ在リテハ其ノ旨

第五條 罰除

第六條 鑛業權者ハ十六歳未満ノ者及女子ヲシテ一日ニ付十一時間ヲ超エテ就業セシムルコトヲ得ス

鑛業權者ハ選炭作業ニ従事スル者ニ付テハ鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケ期間ヲ限り前項ノ就業時間ヲ十二時間迄延長スルコトヲ得

第六條ノ二 鑛業權者ハ溫度攝氏三十度ヲ超ユル坑内ノ場所ニ

於テ十六歳未満ノ者及女子ヲシテ就業セシムル場合ニ於テハ其ノ者ヲシテ他ノ場所ニ於ケル就業時間ト通算シテ一日ニ付八時間ヲ超エテ就業セシムルコトヲ得ス

鑛業權者ハ溫度攝氏三十五度ヲ超ユル坑内ノ場所ニ於テ十六歳未満ノ者及女子ヲシテ就業セシムルコトヲ得ス

第七條及第八條中「探掘權者」ヲ「鑛業權者」ニ、「十五歳」ヲ「十六歳」ニ、「午前四時」ヲ「午前五時」ニ改ム

第九條中「探掘權者」ヲ「鑛業權者」ニ、「十五歳」ヲ「十六歳」ニ改ム

第十條中「探掘權者」ヲ「鑛業權者」ニ、「十五歳」ヲ「十六歳」ニ、「午前四時」ヲ「午前五時」ニ改ム

第十一條中「探掘權者」ヲ「鑛業權者」ニ、「第六條乃至第十條」ヲ「第六條、第六條ノ二第一項及第七條乃至第十條」ニ、「鑛務署長」ヲ「鑛山監督局長」ニ改ム

第十二條中「探掘權者」ヲ「鑛業權者」ニ、「十五歳」ヲ「十六歳」ニ、「又ハ變壓器」ヲ「變壓器又ハ「コットレル」集塵裝置ニ屬スル整流機」ニ改メ左ノ二號ヲ加フ

十四 電解精鍊ヲ爲ス場所ニ於ケル業務

十五 鑛石、燃料其ノ他ヲ熔鑛爐ニ裝入スル業務

第十三條中「探掘權者」ヲ「鑛業權者」ニ、「十五歳」ヲ「十六歳」ニ改ム

第十四條中「探掘權者」ヲ「鑛業權者」ニ改ム

第十五條 鑛業權者ハ四週日以内ニ出産スルコトアルヘキ者休業ヲ求メタルトキハ其ノ者ヲシテ就業セシムルコトヲ得ス

鑛業權者ハ産後六週日ヲ經過セサル者ヲシテ就業セシムルコトヲ得ス但シ産後四週日ヲ經過シタル者就業セムコトヲ求メタル場合ニ於テ醫師ノ支障ナシト認メタル業務ニ就カシムルコトヲ妨ケス

第十六條 生後滿一年ニ達セサル生兒ヲ哺育スル女子ハ就業時間中ニ於テ一日二回各三十分ヲ限リ其ノ生兒ヲ哺育スヘキ時間ヲ求ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テ鑛業權者ハ哺育時間中其ノ女子ヲシテ就業セシムルコトヲ得ス

鑛業權者坑内作業ニ従事スル女子ノ生兒ノ保育ニ關シ必要ナル施設ヲ爲シ鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケタルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス坑内作業ニ従事スル女子ニ哺育時間ヲ與ヘサルコトヲ得

第十七條中「當該鑛夫ノ重大ナル過失ニ因ルコトヲ證明シタル場合ヲ除クノ外」ヲ削ル

第十九條 鑛夫療養ノ爲勞務ニ服スルコト能ハサルニ因リ賃金ヲ受ケサルトキハ鑛業權者ハ鑛夫ノ療養中一日ニ付賃金百分ノ六十以上ノ休業扶助料ヲ支給スヘシ但シ同一ノ疾病又ハ負傷及之ニ因リ發シタル疾病ニ付其ノ支給百八十日ヲ超エタルトキハ其ノ後ノ支給額ヲ一日ニ付賃金百分ノ四十迄ニ減スルコトヲ得

第二十條中「扶助料」ヲ「障害扶助料」ニ、「百七十日分」ヲ「五百四十日分」ニ、「百五十日分」ヲ「三百六十日分」ニ、「百日分」ヲ「百八十日分」ニ、「三十日分」ヲ「四十日分」分ニ改ム

第二十二條ノ二 鑛夫重大ナル過失ニ因リ負傷シ又ハ疾病ニ罹リ

法 令

且鑛業權者其ノ事實ニ付鑛山監督局長ノ認定ヲ受ケタル場合ニ於テハ休業扶助料又ハ障害扶助料ヲ支給セサルコトヲ得

第二十一條 鑛夫死亡シタルトキハ鑛業權者ハ遺族又ハ鑛夫ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニ賃金三百六十日分以上ノ遺族扶助料ヲ支給スヘシ

第二十二條 鑛夫死亡シタルトキハ鑛業權者ハ葬祭ヲ行フ遺族又ハ鑛夫ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニシテ葬祭ヲ行フ者ニ賃金二十日分(其ノ金額二十圓ニ滿テサルトキハ二十圓)以上ノ葬祭料ヲ支給スヘシ

第二十五條第一項第三號中「鑛夫ノ親族又ハ鑛夫ト同一ノ家在ル者ニシテ」ヲ削ル

第二十六條 第十八條ノ規定ニ依リ本人ニ支給スル費用及休業扶助料ハ毎月一回以上之ヲ支給スヘシ

障害扶助料ハ鑛夫ノ負傷又ハ疾病ノ治療後遲滞ナク、遺族扶助料及葬祭料ハ鑛夫ノ死亡後遲滞ナク之ヲ支給スヘシ但シ障害扶助料及遺族扶助料ハ鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケ數回ニ分割シテ之ヲ支給スルコトヲ得

第二十六條ノ二 鑛夫健康保險法(第四十八條第一項第二號ノ規定ヲ除ク)ニ依リ療養ノ給付又ハ療養費ノ支給ヲ受クヘキトキハ其ノ期間第十八條ノ扶助ハ之ヲ爲スコトヲ要セス健康保險法ニ依ル傷病手當金ノ支給ヲ受クヘキトキ休業扶助料ノ支給ニ付亦同シ

鑛夫ノ死亡ニ關シ健康保險法ニ依リ埋葬料又ハ埋葬ニ要シタル費用ノ支給アルヘキトキハ葬祭料ノ支給ハ之ヲ爲スコトヲ

第二十三條 (第四號 一七五) 六九七

要セス

健康保険法第六十二條第一項第二項、第六十四條又ハ第六十五條第二項ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受ケサル場合ニ於テハ前二項ノ例ニ依リ第十八條ノ扶助又ハ休業扶助料若ハ葬祭料ノ支給ハ之ヲ爲スコトヲ要セス

第二十七條中「扶助ヲ受クル鑛夫」ヲ「扶助ヲ受ケ又ハ健康保險法ニ依リ療養ノ給付若ハ療養費ノ支給ヲ受クル鑛夫」ニ、「百七十日分以上ノ扶助料」ヲ「五百四十日分以上ノ打切扶助料」ニ改ム

第二十八條第一號但書及第二號中「扶助」ヲ「扶助又ハ健康保險法ニ依ル保險給付」ニ改ム

第二十九條 扶助料及葬祭料算出ノ標準トスヘキ賃金ハ左ノ各號ノ金額トス

一 鑛夫健康保險法ニ依ル被保險者タル場合ニ於テハ同法ニ基キ其ノ者ニ付定メタル標準報酬ノ日額

二 鑛夫健康保險法ニ依ル被保險者タラサル場合ニ於テハ疾病ニ在リテハ診斷ニ據ル發病ノ日ヲ除キ、發病ノ日明ナラサルトキハ診斷前七日ヲ除キ、負傷又ハ即死ニ在リテハ事故發生ノ日ヲ除キ其ノ前（賃金締切日アル場合ニ於テハ直前ノ賃金締切日以前）三月間（雇入後三月ニ滿テサルトキハ其ノ期間）ニ於ケル賃金總額ヲ其ノ期間ノ日數ヲ以テ除シタル金額但シ其ノ金額ハ上記賃金總額ヲ該期間中ニ於テ賃金ヲ受ケタル日數ヲ以テ除シタル金額ノ百分ノ六十ヲ下ルコトヲ得ス

前項第二號ニ規定スル期間中ニ左ノ各號ノ一ニ該當スル期間アルトキハ其ノ日數及其ノ期間ニ於ケル賃金ハ前項ノ期間及賃金總額ヨリ之ヲ控除ス

一 業務上負傷シ又ハ疾病ニ罹リ療養ノ爲休業シタル期間
二 産前又ハ産後ノ女子第十五條ノ規定ニ依リ休業シタル期間

三 試ノ雇傭期間

四 鑛業權者ノ都合ニ依リ鑛夫臨時ニ休業シタル期間
第一項第二號ノ賃金總額ニハ三月ヲ超ユル期間毎ニ支給スル賞與及發明進行其ノ他特別ノ行爲ニ對スル賞與又ハ手當ヲ包含セス

前三項ノ規定ニ依リ扶助料及葬祭料算出ノ標準トスヘキ賃金ヲ算出スルコトヲ得サル場合ニ於テハ扶助規則ノ定ムル所ニ依ル但シ扶助規則ニ定ナキトキハ鑛山監督局長之ヲ定ム

第三十條中「鑛務署長」ヲ「鑛山監督局長」ニ改ム

第三十一條中「鑛務署長」ヲ「鑛山監督局長」ニ、「變更セムトスルトキハ三十日前」ヲ「變更シタルトキハ遑滯ナク」ニ改ム

第三十三條中「別記様式」ヲ「様式第一號」ニ、「鑛務署長」ヲ「鑛山監督局長」ニ改ム

第三十四條 鑛夫就業中又ハ事業場内ニ於テ負傷シ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタルトキハ鑛業權者ハ遑滯ナク醫師ヲシテ診斷又ハ檢案ヲ爲サシムヘシ

第三十四條ノ二 探掘權者ハ様式第二號ニ依リ第一條第一項第四號ノ歸郷旅費支給ノ狀況ヲ、様式第三號ニ依リ同條同項第

七號ノ貯金其ノ他ノ積立金ノ狀況ヲ鑛山監督局長ニ届出ツヘシ

第三十五號中「就業時間、」ヲ「始業及終業ノ時刻並」ニ改ム

第三十七條中「鑛務署長」ヲ「鑛山監督局長」ニ改ム

第三十七條ノ二 鑛山監督局長ハ鑛業權者ニ對シ本則施行上必要ナル報告ヲ命スルコトヲ得

第三十八條中「第十五條、」ノ下ニ「第十六條第一項、」ヲ加フ

第四十條 第二條第二項、第三十三條若ハ第三十四條ノ二乃至第三十七條ノ規定ニ違反シタル者又ハ第三十七條ノ二ノ規定ニ依リ命セラレタル報告ヲ爲ササル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

別記様式ヲ別記ノ如ク改ム

附 則

本令ハ大正十三年法律第二十二號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ニ許可ヲ受ケタル雇傭勞役規則ニシテ本令ニ依リ變更ヲ要スルモノハ本令施行ノ日ヨリ二月内ニ其ノ變更ノ手續ヲ爲スヘシ

従前ノ規定ニ依リ扶助ヲ受クル者本令施行後引續キ扶助ヲ受クルトキハ本令施行後ハ本令ニ依リ之ヲ扶助スヘシ本令施行前ニ扶助ヲ受ケテ治癒シタル負傷又ハ疾病カ本令施行後再發シテ扶助ヲ受クルトキ亦同シ

本令(第三條ノ改正規定ヲ除ク)中十六歳トアルハ本令施行後三年間ハ之ヲ十五歳トス

(様式省略)

法 令

造幣局合金製造規則

大藏省令第二十一號 (大正十五年五月四日)

第一條 精製金(品位一千分中合金分九百九十分以上ノモノヲ謂フ) 若ハ精製銀(品位一千分中銀分九百九十位以上ノモノヲ謂フ)ヲ提出シテ合金若ハ銀合金ノ製造ヲ請フ者アルトキ又ハ其ノ他ノ金地金若ハ銀地金ヲ提出シテ之ト性合ヲ異ニスル合金若ハ銀合金ノ製造ヲ請フ者アルトキハ造幣局ハ其ノ依頼ニ應シ之ヲ製造ヲ爲スコトヲ得

第二條 合金ノ製造ヲ請ハムトスル者ハ材料地金(參和地金ヲ除ク)ニ別紙様式ニ依ル依頼書ヲ添付シテ之ヲ造幣局ニ提出スヘシ

第三條 依頼ニ依リ製造スル合金ノ品位、形狀及色相左ノ如シ

一品位

イ金 七百五十位、五百八十五位、五百位及三百七十五位

ロ銀 九百五十位、九百位及八百位

二形狀

イ塊

ロ鑄棒 厚 十五ミリメートル 幅 三センチメートル、五センチメートル又ハ七センチメートル

三色相

イ七百五十位金及 白色、黃色及赤色

ロ五百八十五位金

第二十三卷 (第四號 一七七) 六九九

法 令

ロ 五百位金及三百七十五位金 黃色及赤色

第四條 材料トシテ提出スル地金ハ左記各號ノ一ニ該當スルモノナルコトヲ要ス

一 金地金ハ品位一千分中純分五百以上總量四百グラム以上ニシテ銀又ハ銅以外ノ含有物ハ一千分中十以内ノモノ

二 銀地金ハ品位一千分中純分五百以上總量二キログラム以上ニシテ銅以外ノ含有物ハ一千分中十以内ノモノ

第五條 材料トシテ提出スル地金ハ依頼者又ハ其ノ代理人ヲ立會ハシメ之ヲ秤量シテ預リ證書ヲ交付スヘシ但シ依頼者ニ於テ立會ノ必要ナキ旨申出テタルトキハ之ヲ省略スルコトヲ得

第六條 試金ノ爲生スル鑄解減及分析減ハ依頼者ノ負擔トス

第七條 材料トシテ提出シタル地金試金ノ結果第四條ノ規定ニ該當セザルトキハ合金ノ製造ヲ爲サスシテ之ヲ依頼者ニ返付ス

前項ノ場合ニ於テハ依頼者ハ返付ニ要スル費用ヲ負擔シ尙左ノ手数料ヲ納付スヘシ

金、銀又ハ銅 一成分ニ付 二圓

第八條 合金製造手数料ハ製造濟合金引渡ノ際之ヲ納付スヘシ前項ノ手数料ハ製造濟合金一百グラムニ付左ノ區分ニ依リ算出シタル額トス

一金

イ 七百五十位金

白色金

四十五錢

第二十三卷 (第四號 一七八) 七〇〇

黃色金又ハ赤色金 三十錢

ロ 五百八十五位金

白色金 四十錢

黃色金又ハ赤色金 三十錢

ハ 五百位金 二十五錢

ニ 三百七十五位金 二十錢

二銀 十二錢

材料トシテ提出シタル地金ニシテ鑄製ヲ要スルモノニ在リテハ前項ノ手数料ノ外金銀地金精製及品位證明規則ニ依ル手数料ヲ納付スヘシ

第九條 合金製造ノ爲必要ナル參和地金ノ代金ハ前條ノ手数料ト共ニ納付スヘシ

第十條 製造シタル合金ノ純分公差ハ金ニ在リテハ一千分ノ二銀ニ在リテハ一千分ノ三トス

第十一條 合金製造ノ爲生シタル雜物ハ金又ハ銀ニ限リ之ヲ依頼者ニ返付ス

第十二條 製造濟合金其ノ他依頼者ニ返付スヘキ物ハ造幣局ニ於テ之カ引渡ヲ爲スモノトス但シ依頼者ノ請求アルトキハ其ノ指定スル場所ニ之ヲ送付ス此ノ場合ニ於テハ依頼者ハ運送方法ヲ指定シ且運送ニ關スル費用及危險ヲ負擔スルコトヲ要ス

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

畜產物販賣斡旋及受託販賣獎勵規則

農林省令第八號 (大正十五年五月七日)

第一條 農林大臣ハ畜產物ノ販賣斡旋及受託販賣ニ關スル事業ヲ獎勵スル爲本則ニ依リ毎年度豫算ノ範圍内ニ於テ獎勵金ヲ交付ス

第二條 獎勵金ハ畜產組合聯合會等ハ之ニ準スヘキ畜產組合、産業組合聯合會又ハ農林大臣ノ適當ト認ムル組合畜產物ノ販賣斡旋及受託販賣ニ關スル事業ヲ行フ場合ニ於テ左ニ掲クル費用ニ對シ其ノ二分ノ一以內ヲ交付ス

一 事業ニ從事スル專任職員ノ俸給及旅費

二 事業ニ要スル事務費

前項ノ規定ハ道府縣農會又ハ農林大臣ノ適當ト認ムル法人畜產物ノ販賣斡旋ニ關スル事業ヲ行フ場合ニ之ヲ準用ス

第三條 獎勵金ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ申請書ニ左ノ事項ヲ記載シタル書類ヲ添ヘ二月末日迄ニ農林大臣ニ之ヲ提出スヘシ

一 事業計畫

二 事業ニ關スル收支豫算

前項ノ書類ノ外農林大臣ハ必要ト認ムル書類ノ提出ヲ命スルコトアルヘシ

第四條 獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者前條ノ書類ニ記載シタル事項ヲ變更シタルトキハ其ノ旨農林大臣ニ報告スヘシ

第五條 獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者ハ事業成績及收支決算ヲ翌

法 令

年度四月三十日迄ニ農林大臣ニ報告スヘシ

第六條 獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者獎勵金ノ全部ヲ當該年度内ニ支出スルコト能ハサルトキハ其ノ殘額ヲ當該年度後ニ於テ行フ同一ノ事業ニ要スル費用ニ對シ支出スル義務アルモノトス

第七條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ農林大臣ハ獎勵金ノ全部又ハ一部ノ還付ヲ命スルコトアルヘシ

一 本則ノ規定ニ違反シタルトキ

二 獎勵金交付ノ條件ニ違反シタルトキ

三 事業施行ノ方法不適當ト認メタルトキ

第八條 本則ニ依リ農林大臣ニ提出スヘキ書類ハ地方長官ヲ經由スヘシ

附 則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三條中二月末日迄トアルハ大正十五年度ニ限り大正十五年六月三十日迄トス

水產増殖獎勵規則

農林省令第六號 (大正十五年四月二十四日)

第一條 農林大臣ハ公益ノ目的ヲ以テスル鮮鱈類ノ増殖ヲ獎勵スル爲本則ニ依リ毎年度豫算ノ範圍内ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スル費用ニ對シ獎勵金ヲ交付ス但シ其ノ費用ニ對シ別ニ國庫ヨリ獎勵金、補助金又ハ之ニ準スヘキモノノ交付ヲ受ケル場合ハ此ノ限ニ在ラス

法令

第二十三卷 (第四號 一八〇) 七〇二

一 鮭鱒類ノ探卵及孵化放流ニ要スル費用

二 鮭鱒類ノ孵化放流ニ要スル費用

三 鮭鱒類ノ探卵用親魚養成及種卵配給ニ要スル費用

獎勵金ノ額ハ前項ノ費用ノ十分ノ七以内トス

第二條 獎勵金ノ交付ヲ受ケルコトヲ得ヘキ者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ限ル

一 道府縣

二 水産會法ニ依リ設立シタル水産會

三 水産組合又ハ水産組合聯合會

四 前各號ノ外農林大臣ニ於テ適當ト認ムル法人又ハ組合

第三條 獎勵金ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ申請書ニ左ノ事項ヲ記載シタル書類ヲ添ヘ四月三十日迄ニ農林大臣ニ之ヲ提出スヘシ

一 事業計畫

二 獎勵金ノ交付ヲ受ケムトスル事項ニ付其ノ計畫ノ内容及收支豫算

前項ノ書類ノ外農林大臣ハ必要ト認ムル書類ノ提出ヲ命スルコトアルヘシ

第四條 獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者前條第一項各號ノ書類ニ記載シタル事項ニ重大ナル變更ヲ加ヘ又ハ其ノ事業ヲ譲渡セムトスルトキハ農林大臣ノ認可ヲ受クヘシ鮭鱒類ノ探卵又ハ孵化放流ニ關スル設備ヲ變更シ又ハ譲渡セムトスルトキ亦同シ

前項ノ規定ニ依リ事業譲渡ノ認可ヲ受ケタルトキハ譲受人ヲ以テ獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者ト看做ス

第五條 獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者ハ獎勵金ノ交付ヲ受ケテ施行シタル事業ノ收支決算ヲ翌年六月三十日迄ニ農林大臣ニ報告スヘシ

第六條 獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者獎勵金ノ全部ヲ當該年度内ニ支出スルコト能ハサルトキハ其ノ殘額ヲ次年度ニ於テ同一ノ事業ニ對シ支出スル義務アルモノトス

第七條 農林大臣必要ト認ムルトキハ獎勵金ノ交付ヲ受ケタル者ニ對シ何時ニテモ其ノ事業ニ關スル報告ヲ命スルコトヲ得

第八條 第四條及第七條ノ規定ニ依ル義務ノ存續期間ハ獎勵金交付ノ日ヨリ五年ヲ超エサル範圍内ニ於テ農林大臣之ヲ定ム

第九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ農林大臣ハ獎勵金ノ全部又ハ一部ノ還付ヲ命スルコトアルヘシ

一 本則ノ規定又ハ本則ノ規定ニ依ル處分ニ違反シタルトキ

二 獎勵金交付ノ條件ニ違反シタルトキ

三 事業施行ノ方法不適當ト認メタルトキ

四 獎勵金ノ支出額其ノ交付ヲ受ケタル事業ノ豫算ニ比シ著シク減少シタルトキ

第十條 本則ニ依リ農林大臣ニ提出スヘキ書類ハ地方長官ヲ經由スヘシ

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三條中四月三十日迄トアルハ大正十五年度ニ限り大正十五年六月三十日迄トス